

人名なら、Tom が短縮形です。仕事の名刺にもこの短い名前を書きます。

敬称

英語の敬称には「Mr. Mrs. Miss Ms. Dr.」などがあります。これらは名前の前に付けます。医学以外の博士号をもつ人は名前の後に「PhD」という肩書きを付けます。「Doctor of Philosophy」が元の意味なので医者と区別するためにPhを付けてます。普通に「ドクター ○○」と呼ばれる人は医者だと思って間違いありません。敬称の後には家族名のみか、又はフルネームを付けます。日本語の「～さん」にあたる敬称はないので、アメリカの職場では個人名のみで呼ぶのが普通です。日本人が相手なら「○○-san」と呼ぶのもいいでしょう。相手が年上かどうかで呼び方が変わることはないで、相手の年齢を知る必要はありません。英語の敬称は単純明快です。女性で既婚者かどうかを区別する必要がなければ Ms. を使います。こうした敬称を salutation と呼びます。

アメリカだと Ladies and Gentlemen はサーカスや野球場などで司会者が観客に語りかける時の決まり文句で、映画にもよく登場します。これらは当然ですが複数形です。子供も含めるときは Boys and Girls と続けます。一方 Sir や

Madam はそれぞれ男性と女性の大人に対して名前代わりに使います。Madam はうら若い女性にも使うので、日本語のマダムとは違います。軍隊や警察関係の人がよく使う敬称です。なおイギリスの Sir はナイトというれっきとした身分を持つ人に付ける称号です。Madam は短くマムと発音されることもあるので、Mom（母親）と間違えそうになります。

Hello Madam, show me your driver's license, please?

Sir, print your name here and sign there.

スポード違反などで警察に捕まるとこのように言われることがあります。軍隊が出て来るアメリカ映画だとよく上官を Sir とか Madam と読んでいますね。

Yes, Sir.

Yes, Madam.

《上の例だと print は活字体で各文字を別々に分けて読みやすく書く動詞で、sign は筆記体で文字をつなげて書く署名を表す動詞です。署名は偽造防止のため簡単には読めない文字なので、print で読める名前を書きます。》